



酪農試験場だより

No. 13



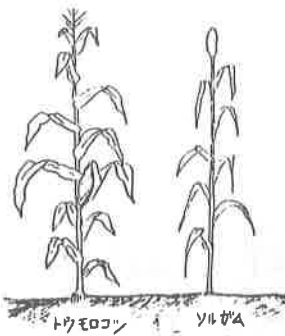
パドックの後代検定牛群

内容紹介

- 夏作物の播種期が近づきました。
- 給与診断の指標値の活用。

酪農の生産性向上には

— よい牛・よいえさ・よい給与 —



夏作物の播種期が近づきました!!

夏作物(トウモロコシ・ソルガム)の播種期が近づきましたので播種に当たっての注意を述べます。

〔トウモロコシ〕

トウモロコシの播種期は、1日の平均気温が約 10°C となる頃から後で、これは、ソメイヨシノの満開から散り始め以降になります。図-1に示すように早播きすることによって、増収が得られますし、また収穫期がはやまるので台風による倒伏の被害が少なくなります。

播種量は、種子重量ではなく、種子粒数(本数)で決めるようにして下さい。極早生種で10アール当たり約8,000本、早・中生種で約7,000本、晩生種で約6,000本が適当です。

雑草防除対策としては、播種・鎮圧後、10アール当たりラッソー250cc、ゲザプリム200gの混合剤を水100ℓで希釈し散布して下さい。

〔ソルガム〕

ソルガムは、1日の平均気温が約 15°C となってから播種して下さい。温度がこれより低いと、発芽や初期生育が不良となるおそれがあります。なお、ソルガムは播種が遅れても減収割合は少ないので、トウモロコシを播こうとして播種が遅れてしまった場合には、ソルガムを播種するようにします。播種量は、散播で10アール当たり2~3kg、条播では1株に3~5粒程度とします。なお、雑草防除対策としては、ラッソーは葉害があるのでゲザプリムのみを使用し、10アール当たり300gを水100ℓで希釈し散布します。覆土が浅いと葉害を生ずることがあるので注意して下さい。

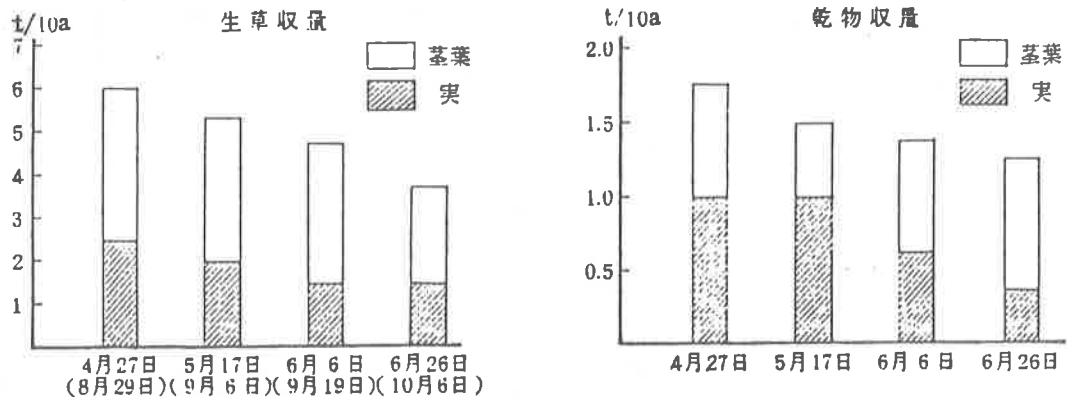


図-1 トウモロコシの播種期と収量性 (昭和58品種NS68)

給与診断の指標値の活用



「私達、8回にわたって飼料給与診断票で使われている8つの指標値のことを話し合ってきたけど、ウシエちゃん、理解できたかしら。」



「うん、まあね。DM体重比、TDN濃度、粗せんい率、TDN

給与率、DCP給与率、Ca給与率、P給与率、 $\%Ca$ 、あめたくさんあって、頭が痛くなりそう。」



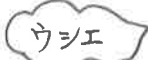
「昔は、こんなことわからなくってよかったんでしょう。」



「そうね。私達、昔と比べると随分沢山乳が出るようになったでしょう。乳があまり出なかった時代と同じように、のんびりしていると体をこわしてしまふのよ。それに、本当はもっと沢山出るはずの乳が出なくて終わってしまうのよ。」



「ウシエちゃん、もう一度簡単に復習して見ましょうよ。これらの指標値に注意しなければいけないのは、いつだったかしら。」



「分娩から乳の出盛りまでの乳量が増えて喰い込みがもう一っ進まない時期でしょ。」



「そのとおり、じゃあ、エサのTDN濃度を濃くしてもらつと食が進んでDM体重比が大きくなり、TDN給与率を高くすることが出来ることはわかったかしら。」



「ええ、わかっているわ。」



「TDN濃度を高くするためには、濃厚飼料にだけ依存するのではなく、粗飼料の質を高め、粗せんい率が低くならないようにすることは？」



「もちろん、わかっているわ。」



モーコ 「じゃあ、TDN給与率が十分高いのに乳の出が悪い、体の調子が悪いといった時は、どうすればいいんだっけかしら」

ウシエ 「そういう時は、DCP給与率を高めてもらうの。それもバイパス蛋白質を多く含んでいるようなエサを上積みしてもらうのよね」

モーコ 「そのとおりね」

ウシエ 「あと、乾乳期にはCaをあまりとり過ぎないよりにするんだっけよね」

モーコ 「ウシエちゃん、よく理解しているじゃない。これで、飼料給与診断票の指標値を十分活用できるわね」

ウシエ 「私もよおく、見ることにするわ。でも牛乳生産調整の時代に、そんなに沢山乳を出したんじゃ悪くないじゃないの」

モーコ 「ううん、じゃあそのことについてはこの次に考えてみましょう」



酪農試験場だより No13	栃不貝酪農試験場
昭和61年3月12日	〒329-27 西那賀野町本松97
	電話 02873-6-0230